|  |
| --- |
| 会議の結果 |
| 件　　　名 | 令和３年度田辺市社会教育委員会議　第４回定例会 |
| 日　　　時 | 令和３年11月29日（月曜日）　　午前10時00分～11時30分 |
| 場　　　所 | 田辺市民総合センター　４階交流ホール |
| 出　席　者 | ○社会教育委員出席者９名：　松場議長、尾崎副議長、稲垣委員、加藤委員、近藤委員、坂本委員、砂野委員、中根委員、西川委員欠席者４名：　九鬼委員、小山委員、佐久間委員、柳川委員○事務局６名：　佐武教育長、前川教育次長、狼谷生涯学習課長、那須生涯学習推進係長、尾﨑公民館係長、遠山公民館係主査、澤本生涯学習推進係主事 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）令和３年９月補正予算について

（２）令和３年度田辺市社会教育功労者表彰について

（３）第26回田辺市民駅伝大会・第39回田辺市子どもクラブ駅伝について

（４）第96回新春初泳ぎ・第38回新春初漕ぎについて

（５）紀南文化会館の指定管理者の指定について

（６）文化振興課の行事予定（１月）について

（７）南方熊楠顕彰館の行事予定（11月～１月）について

（８）第64回関西実業団対抗駅伝競走大会の結果について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。質疑応答における委員からの発言はなかった。

４．協議

（１）生涯学習推進計画素案検討部会について、事務局より会議結果報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

A委員： 地域シンポジウムの際には、タイムテーブルがあった方がみんなわかりやすいので、大きく

模造紙に印刷して貼って置いたらいいと思います。それと、グループワークの進め方で自己

紹介について、ある程度の参加者はお互いのことを知っていると思うので、例えば卓上名札

を作っておいて自己紹介は簡単に終わらせて、後のディスカッションに時間を割くといった

工夫は出来るんじゃないかと思います。また、進行役や記録係も、決めるのに手間取ったら

時間がかかるので事前にお願いしておくとか、そういったことも必要じゃないかと思います。

それから、個人ワークの部分で、自分の意見を付箋に書くのに８分もいらないと思うので、

５分程度にして、後のグループ討議に時間を割いた方がいいと思います。

　　　　事務局： 資料として提示しておりますのはあくまでも基本スタイルで、各公民館との打合せの中で修

正できるところは修正していく形にしています。タイムテーブルにつきましては、仰られた

とおり拡大版もご用意しておりますし、机の上にもＡ３用紙でタイムテーブルをお配りする

予定にしています。個人ワークについては８分にしておりますけれども、その場の状況を見

ながら、詰められるところは詰めるということで、ファシリテーターの時間の範囲内で動か

していただければと思います。

　　　　　議長： 上芳養の地域シンポジウムが一番手ということで、先日、公民館長と公民館主事と打合せを

しまして、地域カルテとタイムテーブルと参加者名簿を、参加される方に送っていただいて

います。当日の課題は、これを持ってきてくれるかどうかというのが課題だねという話もし

ています。社会教育委員が２人でファシリテーターをした場合、１人は時間の管理で精いっ

ぱいかなという気がしています。内容についての質問まで受け付けると、時間の管理が難し

いかなというのが、今のところ心配しているところです。ですので、上芳養地域で一度やっ

てみてどうだったかというのを、なんらかの形でお知らせしたいと思っております。

（２）人材育成事業企画部会について、高校出張講座、「激論！地元民＆移住者～田辺のええとこ わり

ぃとこ～」、「田辺の明日を考えるシンポジウム」の説明を行った。

　　 　B委員： 以前の高校出張講座の時に、意見が何種類か出たんだけれども、私のグループの中では、地

元に残るという方が結構多くて、その理由が、生活経費が安い。外へ出る方は、自分のやり

たいことを学ぶ学校がないから、というくらいで、普通にここにいるんだな、というような

人が多かったです。住むところがあるし、生活費安いし、交通の便が悪いといっても大した

ことないしということで、普通にこうやって暮らしてくれたら、すごい意欲的にここに残ろ

うじゃなくてもいいんじゃないかなと思いました。古着屋さんが欲しいという子もいて、ど

ういうことか聞くと、今の若い子が欲しい古着屋さんがあると嬉しい、と言っていました。

それと、イオンモールが欲しいという意見が結構あって、そうすると講師の方が、イオンモ

ールが出来たら、次はもっと違うものが欲しい、ということになっていく、と言うと、高校

生は「今オークワしか行くところがないもん」という。地元興しをしたいとかそんな特別な

理由ではなくて、ずっとここにいたんだから、ここにいてもいいでしょ、という意見があり

ました。

　　　 C委員：私のところもしっかりした子たちばかりでした。地元に残りたい子が半分いたので、ディスカ

ッションのテーマ①の「それでも都会である必要があるのか」を討議する時に、地元に残りた

い子たちがあえて都会の方が良い理由に寄せて考えたところがあって、発表を順番に見ていく

と、地元が良いという意見もそのまま出しても良かったんだということに気づいたんですけれ

ども、何がすごかったかなと思うと、高校生なのにまとめる力、発表する力がすごいな、とい

うのが感想です。あと、意識調査のことで後から感じた事なんですけれども、後からアンケー

トを見て気づいたことなんですが、ジェンダーの面で、性別を答えるところが、アンケートの

内容にSDGsの回答もある中で、男性か女性かという二択だったのが、その内容があるんであれ

ば、「その他」という枠があってもよかったのかなと思いました。少数であっても、そこで二

択になってしまうと、アンケートに答えること自体が疎外感を感じるのかなと思いました。

　　 　B委員：今、加藤委員が最後に仰った部分については、私は事前に事務局に言ったんです。私も「その

他」であったり、何も書かないという選択肢もあるかと思ったんですけれども、表現の仕方が、

その他というと排他的にも感じられますし、どの言葉が適切なのかというのが事務局としても

あったと思うんですけれども、私も気になったので事前に言ったんですが、これからまた、ど

ういう方法が良いのかみんなで検討していけたらと思います。あと、私のグループはたまたま

新聞に載っていたグループに入っていまして、その中で司会をやってくれた子が、一旦進学で

出るけれども、やっぱり帰ってきたいと。先ほど稲垣委員のグループではイオンモールが欲し

いという意見があったと言われていましたが、うちのグループではサイゼリヤが欲しいという

意見がありまして、面白いなと思ったんですけれども。今はネットがあるからそんなに不便を

感じないというのがあって、ただ交通の便が悪いから、という意見もありました。

　　　 D委員：私は市民カレッジに出席できなかったんですけれども、中学校でもそのようにディスカッショ

ンする場面はたくさんありまして、例えば国語科の中でも、先日は３年生が、地域の課題とか

地域をどんな風にしていったらいいのかといったことを題材に、色んなことをKJ法で出してそ

れをまとめて、こういう風に地域を盛り上げたいんだという発表をしていましたし、２年生の

キャリア教育の中でも、職場体験ができないんですけれども、その中で、地域を活性化するた

めにどうしたらいいのかとか、企業と連携して、どういう風に地域に貢献していくのか、とい

うことを考えさせるようなプロジェクトになるんです。そういった部分で、中学生も同じよう

に地域のことを考えて取り組んでおります。先日、図書室をリニューアルするのに、３年生に

お願いしたら、非常に喜んで生き生きと色んなことを企画してくれて、アイデアを出してくれ

たんです。なるほど、こんな目線で見ているんだなということを感じたので、活躍する場とい

うのがあれば、子供たちというのはどんどんと活動出来るんだな、意見が出るんだなと思いま

して、神島高校なんかも神島屋であるとか、色んな部分で活躍するのを見ると、具体的な場面

があると、具体的な話になると感じました。

　　　 E委員：後から聞くこともあったので、個人的に高垣工務店の石山さんは知っているので、その後会う

機会もあったので、彼はバイタリティ溢れて面白い方なので、「若い子と話できるのはええ

わ」という感じですごい楽しそうだったので、後から無理してでも行ったらよかったなという

感じではあったんですけれども、今まさに、年末にかけてコロナが落ち着いてきたので、子ど

もクラブであったり、昨日は学童野球の方に行っていたんですけれども、今ちょっと面白く

「イオンが欲しい」「サイゼリヤが欲しい」といった話があったんですが、私も都会が好きな

方なんで、ここ２年ほど県外にはほとんど出れていないんですけれども、新しい商業施設とか

が出たら見に行ってみたりしてみたいので、若い子が都会に行こうという気持ちはわかるかな

と思うんですけれども、地元にいて、私たちはもうこの歳になって何不自由ないのかなと思う

んですけれども、交通の便も悪いとはあまり思わないんですけれども、やっぱり若い子からし

たら買い物をするところがネット以外にないというのはもちろんわかるんですけれども、子供

たちと一緒にいる部分で考えると、例えば教育施設というか、スポーツパークなんかもあるん

ですけれども、なかなか予約が取れないんですよね。何かをしようとなった時に、結局ここし

かない、となって寂しいので、全くできないわけじゃないんですけれども、ちょっとそんな風

に感じることもありながら聞かせていただきました。

　　 　F委員：前に田辺高校で金丸さんに講演していただいた時よりも、お話がバージョンアップしていて、

この間いろんな経験をされていて、この方も根付いて住まれているんだなというのを感じまし

た。やっぱり、サイゼリヤやコストコ、イオンが欲しい、あったらいいというので、金丸さん

が通りかかった時に、もうすぐもっと近くに来るよ、と女の子に声をかけたんですけれども、

その女の子が「目の前に欲しい」と言って、生徒さんはすごく元気にはっきりと意見を言って

いるのにすごく驚きました。以前の田辺高校の時には、金丸さんのお話を聞いて、都会ってあ

んまり良くないのかなと感じてディスカッションだったと思うんですけれども、今回は地元が

好きな子が多い気がして、逆に地元に専門学校や大学があればいいという子たちばかりだった

んです。地元愛はすごく感じまして、坂本委員のお話を聞いて思ったんですけれど、学校に在

籍している間に、地域の方と何かしたりとか、地域との交流があったりとか、学校でも努力さ

れているので、地元が好きな子が多くなってきているのかなと、去年に比べて今年はすごく思

いました。それから、リーダーを一応決めたんですけれど、役割分担を上手に、役割を分散す

る力があるというのか、ものすごくコミュニケーションが上手だなと感じました。一人おとな

しい子がいたんですけれども、最後に発表する時に前へ出たらすごく良い発表をしていて、み

んなが色んな力を持っているなと、今の高校生ってしっかりしているなと感じました。楽しく

仲間に入れていただいて、パワーももらいましたし、すごく良い講座だったと思います。あり

がとうございました。

　　　 G委員：私も当日は参加できなかったんですけれども、学校の話なんですけれど、田辺市と寄付講義を

やっていまして、地域の課題と多様な関わりを考えるというテーマで、田辺フィールド演習と

いうのを10月の下旬にやったんですけれども、この課題を外から来た学生にぶつけてみたんで

すね。京都の五条から通っている女の子のレポートが最優秀だったんですけれども、田辺から

和歌山大学に通ったらいいじゃないか、なぜ通えないのか、ということを説明してくれたんで

す。と言いますのも、和歌山大学に通いで来ている子の一番遠いところが、たぶん三田だと思

うんです。伊丹や宝塚から通ってきている子もいますし、２時間から２時間半かけて通ってき

ているんですね。ふと田辺に目を向けたときに、くろしおの学割運賃の特急定期もあるので、

ちょっと高いというのはあるにしても、下宿するのと生活コストを比べると全然安いんです。

旧田辺市内は全然通えるんですね。２時間あれば通えます。通ったらいいじゃないですか、と

言われて、確かに北側の人たちは通えるのに、南は通えない、みたいな。それとも、一旦地元

を出たいのか。おそらく後者なんでしょうけれども、もっと通えるということをCMしたらどう

ですかと言われて、なるほど、と。実際に、田辺から智弁に通う子もいるので、それを感じた

のが一つと、要はこの高校生の皆さんをどうするかとなった時に、先ほどからも言われていま

すが、戦略的に地域と言わずに、住みやすいから住む、というのは確かにそうで、最近の言葉

で言えば「定住人口」でずっといる人と、外から来る人との関係人口論であったり、一旦出る

けれど帰ってくる人であったり、そこを大事にしないといけない。ここの基盤を作る一つの基

盤がこの取組で、地元の大人が、地元の良さを言い続ける。一旦出るのは仕方がない。むしろ

出た方が相対的に見れるので、出た方が良いと思います。比較検討して、理屈で考えても田辺

の方が良い、ということに気づいてもらう基礎となる取組みがこれなんだろうなと思って、こ

れを高校の時に受けたことがある子は、自分でも戻ろうという意識が働くのかなという風に思

いました。

　　　　副議長：私の班では、都会へ行ったらスカウトされる確率が高いとか、人が多いから人の役に立つ機会

が多いという意見が多くて、それはそれで仕方がないなと思ったんですけれども、私の班にも

地元の良さをしっかり見れている生徒もいました。先ほど稲垣委員の話を聞いていて、都会に

出ていこうとする子が少ないという話を聞いていて、急に不安になったんです。やっぱり、今

の西川委員の話にもあったように、一度県外に出た方が良いなと。出たからこそ見えることや

感じたことはたくさんあるので、むしろ一度出てほしいなと思ったのと、出たがらない子が増

えることに対する不安を感じてしまって、自分の中に矛盾があるんですけれども、私たちが小

さい頃は、地元に残っている者は負け、みたいな空気があったのが、大きく変わってきている

のはすごい大事だし、地元が好きな人間を作らないと池なんですけれども、ただ地元にいたい

からじゃなくて、まちづくりや社会活動に関われる人にいかに戻ってきてもらうのか。前に川

北先生の話で、子育て支援が充実しているから来た、空いている時間は自分の好きなことをす

る、公共サービスを使うだけ使って自分のしたいことだけをするような人がたくさん来ても困

るでしょう、と言われていたのはそのとおりだと思ったので、今後は地元と関われる人間をど

う作っていくか、というのをちょっと持っておかないといけないのかなと最近思っているとこ

ろです。

５．その他

６．閉会　副議長挨拶